

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 16 年 11 月 11 日 (2004.11.11)

【公表番号】特表 2000-504365 (P2000-504365A)

【公表日】平成 12 年 4 月 11 日 (2000.4.11)

【出願番号】特願平 9-526486

【国際特許分類第 7 版】

C 08 F 4/36

C 07 C 409/38

C 08 F 2/18

C 08 F 14/06

【 F I 】

C 08 F 4/36

C 07 C 409/38

C 08 F 2/18

C 08 F 14/06

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 1 月 13 日 (2004.1.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

16.1.13

平成 年 月 日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿



1. 事件の表示 平成9年特許願第526486号

2. 補正をする者

事件との関係 出 願 人

名 称 ソ ル ヴ ェ イ

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話 (代) 3211-8741

氏 名 (5995) 弁理士 中 村 稔



4. 補正命令の日付 自 発

5. 補正により増加する請求項の数 2

6. 補正対象書類名 明細書

7. 補正対象項目名 請求の範囲

8. 補正の内容 別紙記載の通り



請求の範囲

1. ジアルキルパーオキシジカーボネート (該アルキル基は2又は3個の炭素原子を有する) を用いた塩化ビニルの水性懸濁重合方法であって、このジアルキルパーオキシジカーボネートを、実質的にジアルキルパーオキシジカーボネートと、液体で水に不溶性のジアルキルアルカンジカルボキシレートからなる溶液の状態で用いることを特徴とする塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
2. 塩化ビニルと共に使用されるモノマーの量が、全モノマー混合物の50モル％以下であることを特徴とする請求項1に記載の塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
3. ジアルキルアルカンジカルボキシレートが $C_4 \sim C_{10}$ のアルカンジカルボン酸と $C_2 \sim C_{12}$ のアルカノールとから誘導される液体エステルから選択されたものであることを特徴とする請求項1に記載の塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
4. ジアルキルアルカンジカルボキシレートが、アジピン酸と $C_6 \sim C_{10}$ のアルカノールから誘導されるヘキサンジカルボキシレート（アジピン酸エステル）から選択されたものであることを特徴とする請求項3に記載の塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
5. ジアルキルパーオキシジカーボネート溶液の濃度が、約15～40重量％であることを特徴とする請求項1に記載の塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
6. ジエチル又はジイソプロピルパーオキシジカーボネートを、アジピン酸と $C_6 \sim C_{10}$ のアルカノールから誘導されるヘキサンジカルボキシレート（アジピン酸エステル）中で溶液状態で用いることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載の塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
7. ジアルキルパーオキシジカーボネート（該アルキル基は2又は3個の炭素原子を有する）のみを使用して、重合を開始させることを特徴とする請求項1～6のいずれかに記載の塩化ビニルの水性懸濁重合方法。
8. ジアルキルパーオキシジカーボネート（該アルキル基は2又は3個の炭素原子を有する）溶液の製造方法であって、第一段階で、水中で、水性反応混合物の密度を高めるのに十分な量で添加された無機塩の存在下で、適量のアルキル

ハロホルメートを無機過酸化物と反応させて、ジアルキルパーオキシジカーボネート（該アルキル基は2又は3個の炭素原子を有する）を製造し、第二段階で、この製造されたジアルキルパーオキシジカーボネートを水に不溶性の溶媒によって抽出して、この溶媒中にジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を生成することを特徴とするジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。

9. 水性反応媒体の密度が、少なくとも1.05の値になるのに十分な量の無機塩を使用することを特徴とする請求項8に記載のジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。

10. 無機塩が、塩化ナトリウムであることを特徴とする請求項8又は9に記載のジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。

11. 水に不溶性の溶媒が、ポリ塩化ビニルに通常使用されている可塑剤から選択されたものであることを特徴とする請求項8に記載のジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。

12. 水に不溶性の溶媒が、 $C_4 \sim C_8$ のアルカンジカルボン酸と $C_6 \sim C_{10}$ のアルコールから誘導されるジアルキルアルカンジカルボキシレートから選択されたものであることを特徴とする請求項11に記載のジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。

13. 水に不溶性の溶媒が、アジピン酸と $C_6 \sim C_{10}$ のアルコールから誘導されるヘキサンジカルボキシレート（アジピン酸エステル）から選択されたものであることを特徴とする請求項12に記載のジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。

14. ジアルキルパーオキシジカーボネート（該アルキル基は2又は3個の炭素原子を有する）溶液の製造方法であって、第一段階で、水中で、水性反応混合物の密度を高めるのに十分な量の無機塩の存在下で、適量のアルキルハロホルメートを無機過酸化物と反応させて、ジアルキルパーオキシジカーボネート（該アルキル基は2又は3個の炭素原子を有する）を製造し、第二段階で、この製造されたジアルキルパーオキシジカーボネートを、ポリ塩化ビニルに通常使用されている可塑剤から選択された水に不溶性の有機化合物から選択された水

に不溶性の溶媒によって抽出して、この溶媒中にジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を生成することを特徴とするジアルキルパーオキシジカーボネート溶液を製造する方法。